

進行管理狀況評價報告書

鎌倉市観光基本計画進行管理委員会

【 1 】 進行管理委員会の役割と評価手法

鎌倉市観光基本計画進行管理委員会(以下、「委員会」という。)は、その役割及び使命を次の2点と定め、第2期鎌倉市観光基本計画(以下、「基本計画」という。)の進行管理を行うものとしします。

第一は、鎌倉市観光振興推進本部が中心となって取り組んでいる観光振興策(アクションプラン)について、基本計画の目的に沿って推進されているかを評価・検証すること。

第二は、基本計画の最大の目的である「観光の質」を高めるために、観光の視点から横断的な方策やアイデアを提言すること。

具体的な評価・検証作業は、前年度の事業実績や目標指標、その他の統計データなどを基に行うが、観光振興の取組みが単年度で成果が出るものから20年30年たたないと成果を見出せないものまで多種多様であることから、定量的な評価にこだわらず定性的な評価を組み合わせることとしします。

また、今後取組みが多様な主体に及ぶことや統計データの整備が図られることも予想されることから、評価方法は固定することなく毎年検討しながら熟度を高めていくものとしします。

【 2 】 18年度実績に対する評価

平成18年度は基本計画が策定された年であり、基本計画に基づいた実質的な取組みはなされていない。本資料の9ページ以降にある事業は、鎌倉市が基本計画を策定するにあたって各部局の観光振興に関連する事業をまとめたもので、純粹に観光振興を目的としたものは観光課主管の取組みしかない。

このため、個々の事業の進捗に関する評価は別途市の評価(1)に委ねるものとして、委員会としては、事業を「観光」及び「質」という横断的な視点で評価・検証を行い、次ページの一覧表で、目標項目ごとに整理を行ないました。

1 市の事業は、鎌倉市第3次総合計画後期実施計画に基づいたもので、事務事業レベルの評価は市経営企画課がとりまとめを行っており、市のホームページで紹介しています。

事務事業評価 <http://www.city.kamakura.kanagawa.jp/keiki/gyouseihyouka.html>

アクションプランのチェック結果について

目標 1 鎌倉らしさにこだわる観光の実現・・・ さらなる検討や取組みが必要

項目	取組みについての意見など
ア) 鎌倉らしさの再認識と鎌倉らしいもてなしをしよう	伝統工芸である鎌倉彫の広報宣伝を工夫する パンプを作るだけでなく、ガイドなどを合わせて配置する(北鎌倉など) おもてなし向上の取組み充実(パンプ、鎌倉らしい物産を贈答に活用するなど) 地元小中学生にも観光を理解してもらえるように工夫を 市民も鎌倉を知る機会の充実を
イ) 「いつでも、誰もが鎌倉らしさを楽しめる」まちにしよう	商店街を活気ある魅力あふれるものにする工夫を 県外誘客策のさらなる検討を(滞在型観光への誘導)
ウ) 既存観光資源の見直しと新たな魅力を創出しよう	鎌倉ブランド食材を使う店舗を増やしたりPRする取組みを 旧華頂宮邸などの周知方法などの検討 美術館、博物館構想の事前PRと観光客も意識した取組みを
エ) 鮮度の高い情報を積極的に発信・提供しよう	パンプ類の充実を(多言語、詳細地図、配布場所、広報誌の活用、PR方法)) 湘南新宿ライン沿線でのPR活動を

目標 2 伝統と快適性の調和した観光空間の実現・・・ さらに継続して推進すべき

項目	取組みについての評価、意見など
ア) 歴史的遺産やまち並み景観、豊かな自然環境を良好に保全しよう	鎌倉文士の屋敷の保全など 鎌倉らしいまち並みの創出など(フラワーポットの充実) 世界遺産登録に向けての課題の整理
イ) 安全で快適にまち歩きできるようにしよう	歩行者優先の道路整備事業はさらに推進 観光案内板や多言語表示の増設 まちかど案内所の開設検討
ウ) 清潔できれいなまちにしよう	トイレ一般協力店への支援策検討 まち美化アダプト制度のさらなる推進
エ) 市民、観光客双方に快適な交通環境を実現しよう	

目標 3 地域が一体となった観光振興の連携と実現・・・ さらなる検討・研究が必要

項目	取組みについての評価、意見など
ア) 多様な観光主体が一体となって、組織的に観光振興に取り組もう	広報宣伝活動の充実を
イ) 本計画の進行管理を行い、進捗状況を積極的に発信しよう	アンケート結果の分析及びデータの根拠を詳細に 観光消費額(経済波及効果)の調査

【 3 】 今後に向けての課題・提言

本委員会は、平成18年度の実績を評価・検証した結果を踏まえ、以下の4項目について提言するものである。この提言は、地域一丸となった観光振興を推進するために、行政だけでなく観光関係団体、事業者、生産者、寺社及び市民や市民団体などすべての主体に理解していただきたいと願っています。

1．広報宣伝の充実

地域が一丸となって観光振興策を推進していくためには、基本計画の趣旨、目標などが広く周知され、日常生活の中に浸透していくことが不可欠である。そのためには、日々観光客と相對している事業者や市民が何をすればいいのかまでを分かりやすく説明していくような広報宣伝活動を充実させるべきである。

2．点から面への連携強化

縦割り行政の弊害からか主体ごとに同じテーマの取組みがなされているようである。例えば、伝統工芸である鎌倉彫の振興についても、市産業振興課の取組みと鎌倉国宝館や鎌倉彫資料館などの展示イベントを連携させると鎌倉彫をテーマとした回遊性が生まれることもある。同じテーマを持つイベントや事業については、更なる連携を図るべきである。

3．市民向けの「鎌倉を知る」機会の充実

目標項目の一つである「鎌倉らしさの再認識と鎌倉らしいおもてなし」を推進するためには、市民がまず鎌倉の歴史、文化などに実際にふれて体験することが大切である。市民向けのまち歩きの企画や小中学校における取組みの充実に期待したい。

4．各種統計データの充実

市が作成した実績報告には、目標指標に関するアンケート結果や各種の統計データが整理されている。今後は、関係団体等の協力もいただいて、経済波及効果や観光客の動向に関するデータの収集に努め、市民に分かりやすい統計データ作りに取り組むべきである。

なお、平成19年度には、本委員会と同様に推進本部や個別検討部会が設置され、推進体制が整備されたことは、鎌倉市の観光振興を推進する上で大いに評価されることである。今後、推進本部との密接な意見交換も必要となると認識しているところでもあり協議の仕組みについて検討をお願いしたい。

【 4 】 委員会活動実績

1 . 委員会 委員名簿

20.2.29 現在

区分	所属団体	役職	氏名	
学識経験	慶應義塾大学総合政策学部	准教授	古谷 知之	委員長
"	(株)ツーリズムマーケティング研究所	取締役主席研究員	中根 裕	副委員長
関係団体	日本観光協会 事業推進グループ	国内振興チームリーダー	鷲尾 裕子	
"	鎌倉市観光協会	副会長	牧田 知江子	
"	鎌倉商工会議所	観光部会長	藤川 謙治	
"	鎌倉青年会議所	理事長	藤井 孝彦	19.12まで
"	"	前理事長	菅尾 成彦	20.1から
行政機関	神奈川県商業観光流通課	観光振興担当課長	古谷 幸夫	
市民活動			久能 靖	
公募市民			アルバレス 万智子	
"			松尾 英治	

2 . 19年度委員会開催実績

	開催日	主な審議事項
第1回	平成19年11月19日	委員の委嘱、評価手法の検討、18年度実績の評価・検証
第2回	平成19年12月26日	評価手法の検討、18年度実績に対する中間報告案の検討
	平成20年 3月 日	18年度進行管理状況評価報告書の確定（委員会は開催せず）

鎌倉市の観光事情 <平成 1 8 年度版 >

発行 & 問い合わせ：鎌倉市市民経済部観光課

住所：〒248-8686 鎌倉市御成町 1 8 - 1 0

電話： 0467-23-3000 (内線 2353)

FAX： 0467-23-8700

メール： kankou@city.kamakura.kanagawa.jp